

平成 24 年度事業計画書

学校法人千葉工業大学

■ 高等教育を取り巻く環境

国際社会のグローバル化はさらに加速度を増し、一部地域の問題が瞬時に世界中に影響を及ぼすほど、国々の関係は緊密になってきている。ギリシャの財政危機に端を発したユーロ圏の金融危機は、ユーロ圏内に止まらず、アメリカや日本にも大きな影響を及ぼす可能性を否定できない。東日本大震災によって大打撃を受けた日本経済は、さらにユーロ圏の金融危機に影響を受け、空前の円高に苦しんでいる。

国内では、東日本大震災から一年が経過し、被災地の復興はなかなか進まず、東北地方の生産力は震災前の状況とは程遠く、東北地方を含めた日本経済の本格的な回復にはまだまだ時間を要することとなる。これに関連して、企業の新卒採用は引き続き厳選化が図られ、大学卒の就職率は昨年度よりはやや持ち直したものの、過去3番目の低水準となっている。

これら国際情勢の変化や国内経済の動向を踏まえ、中央教育審議会大学分科会では、これまでの議論に加え、「学士課程教育の質的転換の確立」や「好循環の始点としての学修時間の確保による主体的な学びの確立」について議論が進められおり、各大学による学士課程教育の更なる質の保証が問われてきている。

■ 本学の現状

昨年3月11日に発生した東日本大震災により本学も多大な影響を受け、3月22日挙行予定であった学位記授与式及び4月1日の入学式の挙行を取りやめた。また、被災した芝園校舎及び茜浜運動施設では短期間に急ピッチで仮復旧工事を進め、4月の新学期開始に間に合わせる事ができた。本格的な復旧工事は10月から着手し、平成24年度早々に完了の見込みである。

震災復興への支援としては、未来ロボット技術研究センターが中心となって開発した災害対策ロボット「クインス」を急遽原発対応に改良し、東京電力の要請を受け、福島第一原子力発電所に投入した。

学内では、平成20年度の(財)日本高等教育評価機構による認証評価受審後3カ年が経過し、改善向上方策のその後の進捗状況を総点検するための自己点検評価を実施した。また、JABEE(日本技術者教育認定機構)への取り組みは、工学部電気電子情報工学科、情報科学部情報ネットワーク学科に続いて、今年度は工学部生命環境科学科、情報科学部情報工学科、社会システム科学部経営情報科学科・プロジェクトマネジメント学科のコースが認定を受ける予定である。さらに、今回で9回目となる株式会社格付投資情報センターによる発行体格付の更新を受け、昨年度に引き続きAA-(安定的)の評価を得ており、様々な形で点検評価を実施している。

学生支援では、一昨年よりスタートした学生の自主的な創作活動を支援する「CITものづくり」を充実させるほか、これまで実施してきた様々な導入プログラムを「初年次教育」として体系化しより充実した学生支援を実行している。

本学の一般入試の志願者動向は、新校舎の完成、入試制度の改革、教育研究体制の充実、積極的な広報展開等によって志願者が継続して増加している。しかし、この結果に満足することなく、時代に即した教育課程改革を継続的に実施しつつ、修学支援体制の更なる充実やキャリア教育の拡充など、総合的な学生支援体制の整備を今後も進めていく。

■ 平成 24 年度事業計画

1. 教育研究

本学の教育目標「科学技術の厳しい変化に対応できるしっかりした基礎学力を持つ学生（人材）の育成」を図るための一環として、前年度に引き続き、次の2項目からなる初年次教育を実施する。①大学での修学に適応するのに必要な技術や心構えを養う授業②工科系大学生としての学力を確保するための高校における数学・物理学・化学の補完授業。これらを実施すると共に、1・2年生が通う芝園キャンパスの学習支援センターも充実（数学・英語・物理学・化学を担当する教員が、常に支援する体制）させることにより、高校教育から大学教育への円滑な移行を進める。

教育力の向上を図るために、FD活動の一環として平成21年度から学部教育シンポジウムを通じた「教育業績表彰」制度を運用し、この制度の更なる充実を図り、教育手法に関する情報を共有するとともに、講義や演習等における指導にフィードバックしていくことを目指す。また、学生を主体としたものづくり活動に対して人的・経済的支援を行う「CITものづくり」を実施し、学生に“ものづくり”に対する興味を抱かせ実行力を養わせる。

JABEE（日本技術者教育認定機構）認定コースの申請については、今年度に機械サイエンス学科（機械設計・開発コース）と建築都市環境学科（建築都市エンジニアリングコース）の申請準備を進める。既に認定を受けている電気電子情報工学科（総合システム工学コース）、情報ネットワーク学科（ネットワークコース）に加え、昨年の11月には生命環境科学科（環境創成工学コース）及び社会システム科学部の経営情報科学科・プロジェクトマネジメント学科（経営システムコース）が既に実地審査を終了し、5月に認定を受ける予定である。これにより、当初予定したすべての学科（コース）が受審を受け、工業大学としての「出口での質保証」に繋がるものと考えられる。

研究面においては、若手教員に対する研究支援強化等により、研究活動の活性化を進めるとともに、産官学融合センター機能の一層の充実を図ることで大学の第三の使命である「社会貢献」を推進し、研究シーズの積極的な公開を行う。

[具体的項目]

- (1) 学生生活の満足度向上へ向けた継続的対応
- (2) 学生支援の充実強化（学生相談，課外活動，奨学金等）
- (3) 学生共済会の充実
- (4) 入学前教育の充実
- (5) 教養基礎教育カリキュラムの充実
- (6) 初年次教育の充実
- (7) 教員と一体化した就職支援の推進
（企業との交流を深める・保護者向けキャリアフォーラムの実施）
- (8) キャリア形成支援の強化
（支援プログラムの充実，資格取得講座の開講等）
- (9) キャリア教育（初年次）の促進
- (10) インターンシップの促進
- (11) 新入生に対する少人数制による総合的な支援

- (12) 習熟度別教育の充実
- (13) 「C I Tものづくり」を通じ、学生の工学に対するモチベーションを高めるためのものづくり活動支援
- (14) J A B E E（日本技術者教育認定機構）認定申請に向けた取組
- (15) F D活動を通じた教育業績表彰制度等の継続
- (16) 自己点検・評価の継続的实施
- (17) 競争的研究資金等公的研究費獲得支援
- (18) 経常費補助金特別補助事業の強化
- (19) 研究状況・成果の積極的広報展開
- (20) 大学の特色を活かした公開講座の推進
- (21) 教育・研究業績データベースを駆使した情報の発信
- (22) デジタル情報の普及と学習機会の多様化に対応した機能の充実
- (23) 地域社会と連携を図るための図書館の開放
- (24) 海外協定大学との連携強化
- (25) 留学生の派遣及び受入れ体制の充実
- (26) 教育・研究のためのネットワーク機能の充実
- (27) 基幹LANの更改（クラウド化）
- (28) 安否確認システムの導入
- (29) 学生寮の支援活動強化並びに千種寮 50 周年記念事業準備
- (30) 東京スカイツリータウンキャンパスの有効活用

2. 管理運営

平成 18 年度からスタートした 5 ヶ年計画の再開発は、平成 23 年 3 月の新 2 号棟竣工を以って完結したが、平成 24 年度以降も進行中の 4 号館改修工事に伴う移転作業や備品の購入計画を進めるほか、金属・工化実験室や部室棟の解体工事と 1 号館・本館跡地の整備計画を同時に進めて行く。

芝園校舎においては、授業への配慮により工程の見直しを余儀なくされた震災復旧工事を早々に完成させた後は、老朽化の著しい 6 号館の空調改修工事と屋上への太陽光発電装置の設置計画を進める傍ら、平成 26 年春の竣工を目指し、新学生寮の建設計画を早々に進めていく。

既存建物の改修整備計画は、「学生のための環境整備」・「電力需要への対応（省エネ・節電）」・「災害時における安全・安心のための対策」をテーマに各種整備計画を検討していく。

〔具体的項目〕

I. 施設・設備関係

(1) 津田沼校地：4 号館改修工事

- 金属・工化実験室、部室棟 解体工事
- 本館・1 号館 跡地整備工事

- (2) 芝園校地：芝園校地・茜浜運動施設 震災復旧工事
6号館 空調改修・太陽光発電装置設置工事
新学生寮建設工事

II. 組織等

- (1) 継続した学生支援業務，教育研究サポート業務の充実のための事務対応
- (2) 創立 70 周年事業の実施
- (3) 安定的な経営基盤の確立を目指した財務運営
- (4) SDを目指した各種研修の実施

以上